

「平和」・「人権」について考える夏！ 労福協コラボ企画「平和作品展＆親子映画」

三教組と三浦半島労福協コラボ企画、「第36回平和作品展」が8月2日(金)から、8月5日(月)にかけて横須賀三浦教育会館で、「親子映画」が8月3日(土)に横須賀総合高校で、それぞれ開催されました。両イベントを通して、約270名もの家族連れを中心とした来場者が訪れ、「平和」・「人権」について考える良い機会となりました。



平和作品展

平和作品展は、三浦半島内（横須賀市・逗子市・葉山町・三浦市）の児童・生徒の作品を、横須賀三浦教育会館ホールを会場に展示しています。今年は、1,200名を超える小・中学生、高校生の平和への願いをこめた絵画や迫力のある合同作品の他、川柳・作文・感想文等が展示されました。また、平和に関する書籍を読むスペースもありました。作品を出品した児童・生徒には、参加賞として、主催者と三浦半島労福協連名で消しゴムをプレゼントしました。

また、会場には労福協から「フードバンク」の活動を紹介するコーナーを設け、募金も呼びかけました。多くのご家族がブラカードを読んだり、コースターを持ち帰るなど、関心を寄せていました。募金は3,579円が集まりました。



来場者の感想

- 一番前にある大きい絵に迫力があり、すごかったです。1年生とは思えないくらい絵が大きく、とてもがんばっていたことが伝わりました。私の絵も飾られていたけど、みんなの絵がすごすぎて驚きました。一人ひとりの個性がたくさん絵に出ており、私もがんばろうと思いました。(小6)
- エネルギー溢れる子どもたちの作品に、未来への明るさが感じられました。子どもたちが思い描く未来を守っていかなければと改めて思います。娘とともにふらりと立ち寄りましたが、とても良い時間になりました。ありがとうございました。(保護者)



親子映画

親子映画は、「子どもたちの幸せと平和」を願い、毎年この時期に開催しています。今年は、ハンセン病への差別と人はなぜ生きるのかという根源的な問いを考える作品「あん」を上映しました。また、親子だけでなく、この作品に興味を持ち参加された教員や労福協の案内を見て参加された方もいて、大変好評でした。



来場者の感想

- 私は「差別」という言葉を聞くと、性別に関することや白人・黒人といった内容のことが思い浮かぶけど、今回の映画のように病気のことでも差別が起こるんだと思った。今では、性別などはその人のことを思った行動をとる人も増えてきているから、他のものもなくなっていくといいなと思った。(中2)
- 「何者にもなれなくても、生きる意味がある」という徳江さんの言葉がこの映画のすべての人に向けたメッセージだと思いました。長い間、間違った政策に苦しめられた人がいたことを伝えるとともに苦しみの中でどうやって生きていくのか、周りの声に耳をすませゆっくり苦しみをとかしながら生きている強さを感じました。(保護者)

